

産業廃棄物処理計画書

平成 24年 6月 12日

大分県知事
広瀬 勝貞 殿

提出者
住所 佐伯市弥生大字小田1089-2
氏名 株式会社盛田組
代表取締役 盛田浩史
電話 0972-46-2760

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

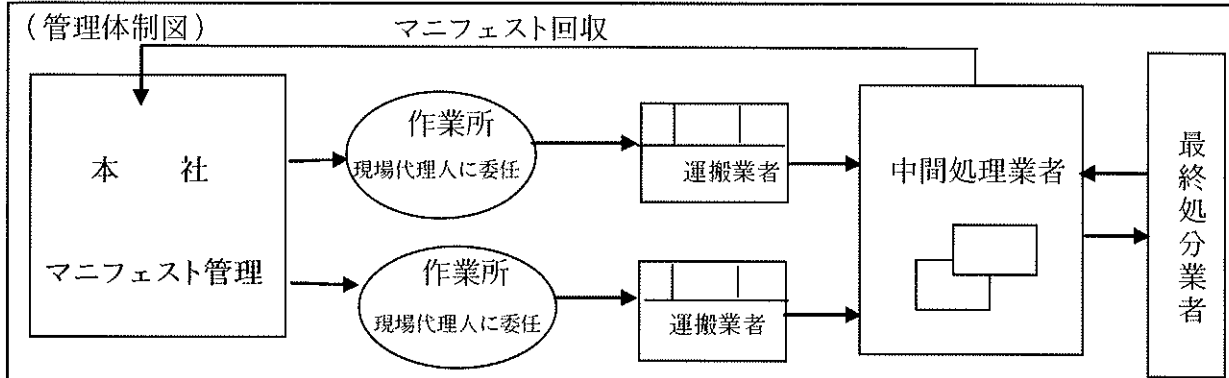
事業場の名称	株式会社 盛 田 組
事業場の所在地	佐伯市弥生大字小田1089-2
計画期間	平成24年4月1日 ～ 平成25年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	前年度完成工事高 614,055（千円）
③ 従業員数	17名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR A[本社] -- マニフェスト発行 --> B((作業所)) A -- マニフェスト発行 --> C((作業所)) B -- 処分委託 --> D[中間処理業者] C -- 処分委託 --> D </pre>



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（23年度）実績】	別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 建設業の場合、受注する工事の数や工事内容により、排出量が大きく違って くる事になります。 現状は廃棄物の全処理を委託しています。マニフェストにより本社にて管理 しています。		
②計画	【目標】	別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 排出量の抑制については、むずかしいですが、木くずなどは再生資材として 利用できるように、処分業者に委託します。 コンクリートやアスファルトも再生砕石や再生路盤材として、利用できるよう 委託します。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別としては、少量の混合廃棄物ですが、ビニールや廃プラも一緒にしている 場合が有ります。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物を出すときに、廃プラ、ビニールとその他を分けて処分に出すよ うに現場にて分別します。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（23年度）実績】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量		t t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t t
	再生利用業者への 処理委託量		t t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t t
	（これまでに実施した取組） 全処理を委託しています。		

①計画	【目標】	別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>これまでどおり、全処理を委託しますが、再生資材として 処理できるよう、処分業者に委託します。</p>		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業績に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生じる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに。自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することが出来ないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「－」を記入すること。
- 7 ※欄には記入しないこと。

別紙

現 状 (実施状況)

単位 t	発 生 量	アスファルト	コンクリート	木・根・草	廃プラ	残 土	紙くず・ 金属くず	混 載
23年度発生量 (23.4~24.3)	1650.57	267.85	1025.42	309.42	1.14	39.62	0.02	7.1
⑧委託処分量 再生(再利用) 中間処理 最終処分	1602.69 47.88	267.85	1025.42	309.42	1.14	39.62	0.02	7.1
計	1650.57	267.85	1025.42	309.42	1.14	39.62	0.02	7.1

今年度の目標 (24. 4~25. 3)

単位 t	発 生 量	アスファルト	コンクリート	木・根・草	廃プラ	残 土	紙くず・ 金属くず	混 載
廃棄物の発生量	1200	200	700	300	0	0	0	0
⑧委託処分量 再生(再利用) 中間処理 最終処分	0 1200 0	0 200 0	0 700 0	0 300 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
計	1200	200	700	300	0	0	0	0